

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.10.25 No. 149 連絡先 FAX 042-555-1911



沖縄で米兵が女性暴行 許せない卑劣な蛮行

16日、集団暴行・致傷事件が起き、米海軍兵2人が緊急逮捕されました。逮捕されたのはテキサス州フォートワース海軍航空基地所属のブローニング上等水兵(23)、同ウオーカー3等兵曹(23)。

米兵2人は、同日午前3時から4時すぎにかけて、県中部の屋外で帰宅中の面識のない女性を襲い、交互に性的暴行を加え、頸部にけがを負わせました。許せません。(写真:台風の中 市民団体が米に抗議 10月18日 宝の海ブログより)



両容疑者は酒を飲んでいました。2人が宿泊したホテルの部屋からは、衣服の一部など女性の所持品が数点見つかりました。ウオーカー容疑者は「2人で乱暴した」と供述。当初、容疑を否認していたブローニング容疑者も容疑を認めました。沖縄では「米兵集団女性暴行/卑劣極まりない蛮行 安保を根本から見直せ」(琉球新報の18日の社説)など、連日、沖縄県民の怒りを報道。

沖縄では8月18日、女性を背後から髪をつかんで引き倒し、わいせつ行為におよび、全治1週間の頭部打撲を負わせた米海兵隊員による女性への強制わいせつ致傷事件があったばかりです。

深夜外出禁止は再発防止にならない 基地の全面撤去で犯罪なくそう

アンジェラ在日米軍司令官は19日、米海軍兵による集団女性暴行致傷事件の再発防止策として、(1)在日全米軍兵士の深夜外出禁止、(2)部隊司令官による軍人・軍属への基本価値の再研修、(3)公務時間外行動を規定する「リバティーカード制度」の見直し—を実施するとの声明を発表しました。在日全米軍人への外出禁止は初めてです。しかし、これは再発防止になりません。

沖縄では本土復帰以降(40年)だけでも米兵犯罪は5790件、このうち性的暴行事件は127件です。特に127件は氷山の一角です。多くの被害者が声をあげられず、泣き寝入りしています。

米軍基地がある以上、悲惨な事件はなくなりません。事件をなくすには、基地の全面撤去しかありません。アメリカいいなりの日米安保条約を見直すべきです。

オスプレイ 「利用しない」はずの伊江島の滑走路に着陸 運用逸脱

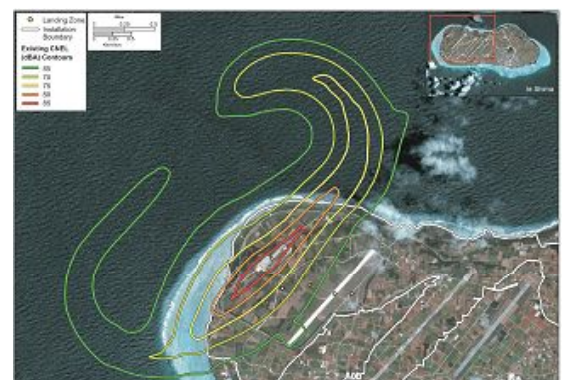
伊江島(面積22.77km²)は沖縄の北部にあります。

島の西部に米海兵隊伊江島補助飛行場があり、そこには1,500メートルの舗装されていない珊瑚からなる滑走路(コーラル滑走路)があります。右の写真は米軍の「環境レビュー」からですが、伊江島でのオスプレイの訓練コース(曲線)とコーラル滑走路(斜めの白いライン)です。

米軍は「コーラル滑走路はMV22着陸帯としては利用しない」としていますが、4,5,10,12日もオスプレイが離着陸するところを確認されました。運用方針を逸脱しています。

コーラル滑走路は主にKC130空中給油機のタッチ・アンド・ゴーの訓練に使用されています。住民は、舞い上がる粉塵による農作物などへの被害に悩まされており、苦情があとを絶ちません。

伊江島には、オスプレイの着陸帯が6箇所あります。オスプレイが配備されたら年間の訓練回数はこれまでの2880回から、6760回に増加するそうです。オスプレイは撤回しかありません。



オスプレイ重大事故 23件 防衛省発表の4倍 元米大尉指摘 (No. 149の裏面)

垂直離着陸機 MV22 オスプレイについて、1991年以降、最も重大な事故である「クラス A」の事故が少なくとも23件発生している可能性があることが分かりました。(10月14日「赤旗」より)

防衛省は米側提供資料に基づき、同時期のオスプレイの「クラス A」飛行事故を6件としていますが、実際はその約4倍も発生していたこととなります。元米海兵隊大尉で軍事評論家のカールトン・メイヤー氏が自身のウェブサイトで明らかにしています。(米軍は、200万ドル以上の損害か死者や全身不随の負傷者が出た事故を「クラス A」としています)

メイヤー氏は、海兵隊がオスプレイの「クラス A」事故について表沙汰になった場合しか報告せず、報告されていない事故があると告発。ほかにも「飛行事故」にもかかわらず「地上での事故」として扱い除外したケースや、「クラス A」に該当するにもかかわらず「クラス B」として報告したケースが多数あるとしています。こうした事例をまとめた結果、91年以降のオスプレイの「クラス A」事故は23件に上り、機体年齢が40年にもなるCH53Dヘリなどよりも事故率が高いとしています。さらに、2012年時点でMV22オスプレイ105機のうち29機が飛行不能状態になっていると、米海兵隊が明らかにしていることを紹介しています。

同機の「クラス A」事故は23件よりも多くなる可能性があるとしています。

横田基地騒音訴訟に 石原都知事「エゴ」発言 住民や弁護団が抗議

10月17日、米軍横田基地の周辺住民らは、午後7時から午前7時までの米軍機の飛行差し止めなどを国に求める新たな騒音訴訟を来年3月にも起こすと発表しました。

このことに関して石原慎太郎都知事は19日の記者会見で、「エゴな話で、眠れないほどの騒音があるわけない。飛行機が飛んでいないんだから、あそこ。横田の周りの住民が騒音訴訟を起こすなんて私に言わせればナンセンスだ」と述べました。横田基地周辺住民にとって、毎晩のように夜10時頃まで飛行しているC130輸送機の訓練は、俗な言い方ですが、頭にきています。

周辺住民や弁護団が23日、「エゴ、訴訟はナンセンス」との発言の訂正や被害救済を求めて都に抗議しました。石原都知事は、住民攻撃するのではなく、首都の基地撤去を求めるべきです。

米太平洋艦隊司令官 横田にC37Aで飛来か

10月16日、セシル・ヘイニー太平洋艦隊司令官(海軍大将)が青森県三沢基地を訪れた様子が太平洋軍のウェブサイトにあります(写真)。米太平洋艦隊の司令部はハワイ州オアフ島に置かれています。第3艦隊と米第7艦隊を指揮下におき、兵力は艦艇約200隻、航空機約2000機を保有し、人員規模は海兵隊を合わせて239,000人を超えるそうです。



横田基地に14日、C37A(写真)の飛来が確認されており、ヘイニー司令官は、この飛行機で飛来したのではないかと知人が言っていました。



ヘイニー司令官は16日、東京都内で記者会見し、中国が海軍力増強を図っていることについて「透明性をもって行動することを望んでいる」と述べ、慎重に見守っていく姿勢を強調。「中国は台頭著しい国であり、軍事力強化を進めるのは驚きではない」と語り、その上で、パネッタ米国防長官が環太平洋合同演習に中国の参加を呼びかけたことを踏まえ、「軍事レベルでも(中国と)協力していくことが重要で、そのような機会を逃さないようにしなければいけない」と述べ、軍事交流に意欲を示した、と報じられています。